

市長記者会見記録

日時：2021年9月7日（火）14時00分～14時34分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：令和3年度（第50回）川崎市文化賞等の受賞者が決定しました（市民文化局）
市政一般

<内容>

《令和3年度（第50回）川崎市文化賞等の受賞者が決定しました》

【司会】 ただいまから、市長記者会見を始めます。本日の議題は、「令和3年度（第50回）川崎市文化賞等の受賞者が決定しました」となっております。

福田市長から本議題について御説明をいたします。市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】 それでは、令和3年度川崎市文化賞の受賞者が決まりましたので、発表をさせていただきます。

本賞は、昭和47年度の第1回以来、50回目を迎えます。本年度は個人・団体合わせて18の候補の中から、川崎市文化賞等選考委員会において審議をしていただき、資料表紙にありますように、6個人、2団体の方々の受賞を決定いたしました。各賞の贈呈式は11月4日木曜日、川崎市国際交流センターで午後2時から行います。

次に、本年度受賞される方々について説明をさせていただきます。資料の1ページをお開き願います。本年度の各賞受賞者の一覧表でございます。まず、各賞について説明させていただきます。

初めに文化賞でございますが、この賞は本市における文化芸術の向上・発展に尽力され、その功績が顕著な方、教育・学術・芸術の分野で創造的な活動・実績により本市のシティーセールスにつながる成果を上げ、その功績が顕著な個人または団体に贈呈されるものです。

次に社会功労賞でございますが、この賞は、市民生活や地域社会の向上・発展に多年尽力され、その功績が顕著な個人または団体に贈呈されるものです。

最後に、アゼリア輝賞でございますが、この賞は、文化・芸術分野など、現在活躍中の若年層及び中堅層で、さらに今後の活躍が特に期待される個人または団体に贈呈するものです。

続きまして、個々の受賞者につきまして、その功績の概要を申し上げます。

まず、文化賞でございます。2ページの黒木登志夫様でございますが、長年にわたってがん研究に従事され、日本のがん医療の発展に貢献してこられました。サイエンスライターとしても活躍され、多数の著書を発行し、本市でも、かわさき市民アカデミーの講師として、医学や生命科学全般について市民に分かりやすく伝える活動に尽力されています。

4ページの日本地名研究所様でございますが、地名の由来等に関する学術的な研究を行い、地名や風土を見直す全国的な研究活動の中心的役割を果たしてこられました。本市においては、『川崎の町名』等の著書や市民講座などを通じ、市民が自分の住む地域の歴史・文化への理解を深め、地元への愛着を深める機会を提供いただいております。

6ページの北條秀衛様でございますが、川崎市文化財団理事長として、ミューザ川崎シンフォニーホール等の運営、発展に尽力されるとともに、御自身の芸術等への深い造詣と情熱により、かわさきジャズ、川崎しんゆり芸術祭などの大型文化事業の立ち上げや運営を牽引され、本市の文化芸術振興に貢献されました。また、岡本太郎美術館館長としても美術館の発展に尽力されました。

8ページのゆりがおか児童合唱団様でございますが、子供たちが音楽によって健やかな豊かな心で成長してほしいとの願いの下、創立され、小学校1年生から高校3年生の子供たちによる美しい歌声は、長年にわたって市民に愛されております。これまで数々の賞を受賞され、著名なオーケストラやアーティストと共演するなど活動の場を広げ、川崎を代表する児童合唱団として、本市の音楽文化の向上に貢献をされています。

次に、社会功労賞でございます。10ページの石山春平様でございますが、ハンセン病回復者として、ハンセン病患者の権利回復の運動を牽引してこられました。本市においては、地域の障害者支援のリーダーとして地域福祉の向上に貢献されるとともに、福祉と人権問題に関する市民向けの講演を行うなど、差別や偏見のない社会の実現に尽力をされています。

12ページの片岡正様でございますが、地域の小児科医として、地域の母子保健の向上のために尽力されるとともに、川崎市医師会の副会長等を務め、地域の子育て支援体制の充実や小児医療の発展に貢献されました。新型コロナウイルス感染症の流行に際しては、市や医療関係団体と連携し、市民の命を守るため、感染症の終息に向けた取組に尽力をされています。

次に、アゼリア輝賞でございます。14ページの加藤梨里香様でございますが、ミ

ミュージカルなどの舞台を中心に活動され、今年公演の帝国劇場ミュージカル「レ・ミゼラブル」では、主役級のヒロイン、コゼットを熱演されるなど目覚ましい活躍を見せる、現在注目の若手俳優です。川崎生まれ、川崎育ちの俳優として、独自の視点で川崎の魅力も発信していただいております。

16ページの齊藤健太様でございますが、洗足学園音楽大学出身のサクソフォン奏者で、4年に一度開催される世界で最も権威があると言われるアドルフサックス国際コンクールで第1位を受賞した、今最も将来が囑望されている若手音楽家の一人です。川崎市の音楽文化の担い手として、今後ますますの活躍が期待されています。

以上で説明を終わらせていただきます。

【司会】 それでは、ただいま御説明をいたしました議題についての質疑応答に入らせていただきます。なお、市政一般に関する質疑につきましては、本件の質疑が終了後、改めてお受けをいたします。進行につきましては、幹事社様、よろしく願いいたします。

【東京（幹事社）】 幹事社の東京新聞です。よろしく願いいたします。改めて、今回の文化賞、社会功労賞等の全体の人選を見ての受け止め、御印象をお伺いできますでしょうか。

【市長】 まず、人数の上限である8団体というか、8個人が選ばれたのが7年ぶりということございまして、50回の節目にふさわしい方々が選ばれたのではないかと考えています。繰り返しになりますけれども、それぞれの分野で大変地域に密着して活動されてきた方たちが選ばれたものと考えています。

【東京（幹事社）】 ちなみに、ハンセン病回復者の石山さんが選ばれていますが、これまで市長御自身は御面識とかがありますでしょうか。

【市長】 それこそ障害者団体の役員もされているので、私は存じ上げております。

【東京（幹事社）】 そのほか、多くの方たち、川崎でも著名な活動をされていらっしゃる方も多いですけれども、個人的な印象で、御交流があったりとかして印象的な方がもしいらっしゃったら伺えますか。

【市長】 個人的にというか、今、お名前が挙がった石山春平さんは、御自身が回復者ということだけでなく、むしろ評価されたのは、そういう体験をされながらも、市内でガイドヘルパーとして30年にもわたって、地域福祉のために自らが貢献されていたということも含めてトータルとして選ばれているというのを審査の評価として聞いていて、こういう方々がいるから地域福祉は成り立っている、向上に大変資されたのかなと思います。

また、川崎でいきますと、地名研究所というのは、拠点を川崎市に置いていただいているということもあったり、それに理解をされている全国の研究者がやっぱり川崎に集まってくるというのは、川崎がセンターとなって、地名というものの大切さを伝えていっているセンターを、長年にわたって活躍されていたその意義はすごく大きいんじゃないかなと思っております。

数え上げれば切りがないんですけど、先週も私、ゆりがおかの児童合唱団、今年50周年を迎えられたということで、文化賞のことを特に意識せずに出席をしていたんですが、非常に素晴らしい活動、50年間というのはすごいことで、OBの方たち、すごく聴きに來られていましたけど、合唱というと今、コロナ禍にあって文化活動でも大変厳しい状況にあるんじゃないかなと思いますけれども、こういう状況にあっても継続して地道に取り組まれているという姿は、やはり私も大きな勇気をもらいましたし、これからも活躍していただきたいなと思っています。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

【共同通信（幹事社）】 共同通信からも一問お願いします。今年度はスポーツに関する受賞がなかったということですがけれども、これはどういった理由でというのは何かあるのでしょうか。

【市長】 いや、去年もなかったですかね。

【市民文化局】 去年はありました。

【市長】 去年はありましたか。失礼しました。今年はなかったということで、特に何かということではないですけれども。

【共同通信（幹事社）】 なかなか推薦に上がるような何かというのは……。

【市長】 そうですね、このタイミングではという、選考までのタイミングのところではなかなか上がらなかったということでしょうけれども、スポーツ特別賞の話は別途ございましたし、本当に今回のオリパラなんかでも活躍されている方はいらっしゃるんですが、この審査の時期までにこういう形というのはなかったということだと私は思います。答申を受けている側なので。

【共同通信（幹事社）】 ありがとうございます。

では、議題に関して。

【東京（幹事社）】 せっかくだから、各社さん、ありましたらお願いいたします。

【司会】 よろしいでしょうか。

それでは、議題についての質疑についてはこれで終了いたします。関係職員につきましては、ここで退席をさせていただきます。

《市政一般》

【司会】 続きまして、市政一般に関する質疑応答をお受けいたしますので、進行につきましては、改めまして幹事社様、よろしくお願いいたします。

《自民党総裁選及び選挙日程について》

【東京（幹事社）】 改めまして、よろしくお願いいたします。先週、衝撃的な菅さんの退陣表明というのがありました。政治の動きの話ですけれども、表明の受け止めから伺いしてもよろしいでしょうか。

【市長】 本当にびっくりしました。ちょうどお昼に、自分の部屋に帰ってきたときにそのニュースが入ってきて、全く想定もしていなかったので強い衝撃を受けましたけれども、それが瞬間的な受け止めだったのですが、総理の口からどういう心境だったかがまだ聞けてないのであれなんでしょうけれども、本当に大変な1年だったなと思いますね。コロナ対策をやっておられる国の責任者、私は一自治体の責任者という形になりますけれども、同じくコロナ禍に立ち向かうというのは非常に難しい1年だったと思いますし、一国の責任者というのは、その重責だとかは計り知れないなと思っております。御本人にとっても、決して本意ではなかったと思いますけれどもね。

【東京（幹事社）】 今、総裁選も言われていて、様々な方のお名前が挙がっていますけれども、こういう難しい時代の次のかじを担う方ということで、地域の立場から見たときに、新総理に望むこととか、どういうことを求められるか伺えますか。

【市長】 やはり国と自治体が一緒に一枚岩でやっていかなくちゃいけないときだと思っておりますので、地域の実情をよく聞いていただいた上で、強いリーダーシップを発揮していただくというのが求められる今の国のリーダー像ではないかなと思っております。そこに期待もしたいと思っております。

【東京（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

《緊急事態宣言下における市立学校の授業の状況について》

【共同通信（幹事社）】 共同通信からお願いします。まず、新学期が始まりまして、コロナの感染拡大もあって、端末を使った授業を小中学校で行っていると思うんですけども、普及の割合としては1校当たりでどのぐらいの普及が進んでいるのかというのと、あとは、対面でできない授業の難しさみたいなものは何か寄せられているのでしょうか。

【市長】 今、まずどういう割合になっているのかというのを、出席していて、給食を食べていて、あるいはオンライン、自宅でというのでどういうふうになっているか、市全体の数を少しお話ししたいと思うんですが、9月1日から9月3日までの3日間

であります。小学校だと81%から82%の方が学校に出席をして給食も食べているという方です。およそ4.7から4.9、大体5%ぐらいの方が、授業は出席して給食は食べずに帰られるという方なので、大体85%以上の方は、85から87ぐらいのパーセンテージの方は学校に出席しているということです。オンラインで参加している方は10%から12%ぐらいという形で、この3日間をなめすと大体そういう形になります。だから、約1割の方がオンラインで登校せず授業を受けているという状況になります。

それで、オンラインで授業配信しているという学級数なんですが、授業配信がちゃんとできているというのは98.3%ということで、ほぼできているということでございます。いろんな課題は出てきています。低学年だと、長期間にわたってオンラインを続けていくのはなかなか難しいなという声が、まだ3日とかというそのぐらいですけれども、出てきているだとか、あるいは、家庭の通信環境だとか学校の通信環境が若干トラブったというのは、数は非常に少ないですけれども、そういうことが出てきているというのも聞いています。そのことについては、通信環境という、例えばルーターを貸し出しするというのは今やっていることですが、容量が超えちゃったっていったらルーターを貸し出しするとかという、そういう丁寧な対応でトラブルは回避しているし、していきたいとは思っています。

以上です。

《川崎市廃棄物の処理及び再生利用等に関する条例の改正について》

【共同通信（幹事社）】 ありがとうございます。また別件になるんですけれども、今、議会に提出されている廃棄物処理に関する条例なんですけれども、こちらの改正案については、罰則の対象になるのが集積所の廃棄物のみとなるのか。そういった場合ですと、例えば、ホームレスの方が個人的な付き合いとかで空き缶とかを譲り受けるような場合が対象外になるかどうかお伺いできれば。

【市長】 基本的には、業者というものの持ち去りだとか、組織的にとかということを防いでいきたいというのがメインの趣旨でございますので、個人的なとかというのは、この条例の対象という形にはなっていないと思います。

【共同通信（幹事社）】 一部では、ホームレスの人がお金を稼ぐのに困るんじゃないかみたいな声がありましたけれども、そういう点に配慮して変えたというよりは、もともと想定の中に入ってなかったという……。

【市長】 というか、もともとホームレスの方で、それをなりわいにされている方もいることは知っていますが、これだけ時間をかけてやってきたというのは、丁寧な説

明と適切な自立支援を行っていくということをセットにしていけないと、なかなかこの問題の解決というか、うまくいかないなというのはあったので、そういった意味で、他都市よりもしっかりと時間をかけてやってきたという経緯であります。

【共同通信（幹事社）】 ありがとうございます。

【東京（幹事社）】 各社さん、お願いいたします。

《自民党総裁選及び選挙日程について》

【神奈川】 神奈川新聞ですけれども、先ほどの菅さんが辞めたことで衆院選の行方が分からなくて、やはり10月24日に投開票がある市長選がどうなるのかということが気になる場所であるんですけれども、その辺について市長としてはどういうふうに思われる、あるいはどういうふうになればいいとか、どういう御所感でしょうか。

【市長】 候補者になる立場なので、言い方は非常に難しいわけですが、一方で、選挙執行に当たっての事務だとか、あるいは経費だとかということを実行していく立場の人間でもあるので、そういった意味では、短期間に2回選挙をやるということは、このコロナ禍にあって多くの職員を動員しなければならないとかということ是非常にタフで、また、地域の皆さんたちに相当な御協力をいただかなければならないことなので、なるべくそれは避けたい。あるいは、経費面で見ても、その分余計に税金を使うことになるので、正直、一緒にやれるほうがいいとは思いますが、ただ、これって私が決められる話ではないので、そうあったほうがいいのではないかなとは思いますが。

【神奈川】 今の衆院選の行方もまだ分からないという状態について、どういう目で見られていますでしょうか。どういう気持ちというか。

【市長】 事務をやっている側の人間とすれば、とにかく早く決めていただきたいというのが正直な気持ちです。そこには、候補者としてはもうどこでもという話ですが、事務という意味では、とにかく早く決めて、無駄なくやりたいということですよ。

《緊急事態宣言下における市立学校の授業の状況について》

【神奈川】 ありがとうございます。

もう1点、学校の話なんですけれども、先ほどのお話で、授業配信がちゃんとできているのが98.3%で、ほぼできているということでしたが、残る1%の部分というのは、例えば、通信トラブルとかそういうこと、それかコンテンツの話でしょうか。

【市長】 ごめんなさい、さっきのできているというのが小学校で98.3%、中学校で98.8%ということでありました。できていないというのは、聞いている範囲では、

いわゆる授業を同時配信するに当たって、個人情報等の件とかで同意を得られない御家庭が一部あると聞いています。その場合は、隣の授業というか、同じ授業をやっているクラスの内容を配信することによってカバーしていると。ですから、そこには、ごく少数ですけれども、そういうクラスがあって、ほかのところで補完しているというのが含まれているということによろしいですか。そういうことです。

【神奈川】 とすると、カバー的には全部されてはいるけれども……。

【市長】 はい、基本的にできています。

【神奈川】 物理的にできないクラスはあるけど、カバーはちゃんとできているものだ……。

【市長】 はい。

【神奈川】 分かりました。ありがとうございます。

【読売】 読売新聞です。今の学校のお話なんですけれども、9月1日から3日で85%から87%の方が実際出席されて、残りがオンラインで授業を受けていらっしゃる。出席してくれた子が小学校で85%から87%いるというのは、市長の受け止めとしてはどうですか。結構みんな出席してくれているなという、多いなというほうなんですか。

【市長】 そうですね。もう少しオンラインのほうがあるかなと、20%ぐらいいくのかなと思っていましたけど、意外と少なかったというのが個人的な受け止めです。何の根拠もないですけど。

【読売】 なぜ、ここまでの数字になったんだと思いますか。

【市長】 実際、学校に行く……。

【読売】 出席を選んだ。

【市長】 感染が不安だという方たちも一定いらっしゃることは理解しています。というのは、出席していても、5%は給食を食べない方もいらっしゃる、このぐらいかなと。ただ、やっぱり子供さんだとか家庭の事情だとか、子供さんはやっぱりみんなと一緒に勉強したいとか、あるいは御家庭でも一緒に受けさせたいという、基本的にはそこなんじゃないかと思います。

【読売】 それともう一つ、公立学校の教員の方のワクチン接種の進捗ってどんなものでしょうか。

【市長】 あくまで正規の教員の、これ、強制的な調査ではないので、任意の調査にどうしてもなってしまうんですが、任意というか、氏名を書かずにという、ワクチンハラスメントみたいなことになってはいけないというのを配慮しながら調査をしたん

ですが、1回目、2回目の接種をしていて、そして、1回目の予約まで取れているという方を合わせると約70%（※）の数字だったと思います。事務方で資料がないですかね。正確な数字をしっかりお見せしたいとは思いますが、後ほどお知らせさせていただきますが、70%（※）に届かないか届くかというぐらいの、69%（※）ぐらいだったと思います。ただ、希望していて、まだ予約が取れていないとかという方も一定数いらっしゃるという形です。

【読売】 希望されている方の中で2回目まで終わった人、1回目まで終わった人、あと1回目の予約まで取れている人を含めると7割弱ぐらいかなという。

【市長】 はい、そういうことです。

【読売】 分かりました。ありがとうございます。

【市長】 教育委員会は、その数字、今は持っていませんね。では、後ほど（※）。正確を期したいと思います。申し訳ありません。

（※）会見終了後、約81%と回答

《緊急事態宣言の延長について》

【朝日】 朝日新聞です。よろしくお願ひします。緊急事態宣言、今回のものは9月12日期限ということだったかと思うんですが、政府ではこれは延長しようかという議論にもなっています。かなり長い間、飲食店なんかの休業要請であるとか酒類の提供禁止だとかが続いていて、相当厳しくて、ちらほら、もう我慢できずに開けている店もありますが、実際地域を見ていて、市長、12日以降はどういうふうに規制はされるべきと思われるでしょうか。

【市長】 私のところに伝わっている声も非常に厳しいものがあって、もう限界だなというのは、先月からずっと限界とか、その前からもう限界というのがずっと続いちゃっているんで、出口がなかなか見えないつらさはいろんなところから声が上がっていますし、やっぱり飲食のところは一番厳しいなど、いわゆる中規模から、人を複数人雇っているような飲食のところは特に厳しいという声が聞こえてきていますので、そういう意味では持ちこたえていたところが、もう持ちこたえられなくなるんじゃないかなという瀬戸際に来ているのかなという印象は受けています。そういう意味では、その辺りの支援の必要性は、少し国のほうでも手当てをしていただかないと、ちょっと厳しいかなとは感じています。

【朝日】 緊急事態宣言前のまん延防止重点措置のときに、感染対策を取っている店については多少お酒の提供なんていうこともあったと思うんですが、今の状況でそこまで戻すというのは難しい……。

【市長】 という印象はあります。というのは、やっぱりよく誤解されていると言われるんですけども、飲食店で感染しているわけではない、これだけ広がっているわけではないということなんですけれども、やっぱりそこから持ち帰ってとかという形で家庭内感染につながっていると、そこで大きく広がっているというのがやはりあるので、飲食店だけをターゲットにするわけではないです、もちろん。そういう意味では気を遣って、感染対策を非常にしっかりやっておられるところとやってないところが一緒くたになっているところが、多分、真面目に取り組まれているところからしたら本当にもどかしい思いをされているのが今の状況だと思いますし、そこを明確にするルールというものが無いので、そういう意味では、正直者が厳しい状況に置かれているという状況ではないかなと。本当にそうであってはいけないなとは思っていますけれども。

【朝日】 ありがとうございます。

《東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会閉会に際して》

【読売】 読売です。終わりましたけれども、オリンピック・パラリンピックが功罪いろいろ言われていますけれども、市長さんとしてどんな御評価……。

【市長】 本当にいろんな見方があると思いますけれども、私は厳しい中でも、そして無観客という非常に寂しい状況ではありましたけれども、開催できて、それはよかったと思っています。特に、オリンピックのところもそうでしたけれども、パラリンピックの競技を自国で開催して、これだけ多くパラリンピック競技を観戦したのは、私、今回初めてですし、周りでも皆さん、そう言っています。非常に感動的だったし、本当は生で、イギリスがロンドン大会のときに12日間生で見たことによって世の中が変わったという話ってありましたけれども、今回、テレビという場を通じてだったんですけども、非常に多くの気づきだとか感動だというのがあったと思って、それは大きな成功だったと私は思っています。これが一つの終わりではなく、きっかけにしてという形で、これからは川崎市はかわさきパラムーブメントというのをしっかり取り組んでいきたいなと思っています。

【読売】 一方で、コロナ対策への影響も指摘する声がありますが、その辺はどうでしょうか。

【市長】 オリンピック・パラリンピック開催でもってコロナが増えたということは、僕はそんなに影響があったとは思えないです。実際に私たちの川崎市でも、英国の事前キャンプは受け入れましたけれども、一人の感染者も出さずという形でやってきましたし、安全な事前キャンプができたと思いますし、また、そこでやっていたボラン

ティアの皆さんは素晴らしい活躍をしていただいたということにすごく感謝しています。川崎市にとってもいいレガシーになったと思っております。

【司会】 いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして終了とします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)0312